

# B 舞鶴コース

海風ウォーキング

全長約5.0km 60分

(往復)

## ルート散策ポイント

### B-01 鮮魚市場市場会館

福岡市中央卸売市場の鮮魚市場は、各地から新鮮な魚が集まる場所。毎月第2土曜日の午前9時～正午には、市場の一部を開放する「市民感謝デー」が行われています。「さかな大好き」の市民が、普段は鮮魚店やスーパーの買い出し人しか入ることのできない仲卸売場で、捕れたばかりの安価な旬の味を買い求めています。隣接する市場会館は毎日誰でも利用でき、市場に届いたばかりの魚で作った料理をお手ごろな料金で提供してくれるレストランなどがあります。



【交通】地下鉄「赤坂」下車徒歩7分・西鉄バス「長浜三丁目」下車徒歩1分  
【住所】長浜三丁目11-3【問い合わせ】2711-6412  
【トイレ】有

### B-02 須崎公園

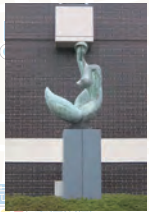
高さ8mほどの大きな噴水塔がシンボルの須崎公園。昼になると、弁当を持ってきた人たちが噴水を見ながらのんびりとくつろいでいます。桜、ツツジ、キョウチクトウ、デイゴなど、季節ごとの花も楽しむことができます。一角にある野外音楽堂では昭和40年代に多くのミュージシャンがステージで演奏を行いました。公園内には福岡県立美術館が立ち、ほかにも「福岡市民のこぼれ」の碑、歴史案内板の「筑紫の碑」などがあります。



【交通】地下鉄「天神」下車徒歩10分・西鉄バス「市民会館前」下車すぐ  
【住所】天神五丁目2【トイレ】有

### B-03 裸婦座像

福岡県立美術館のシンボルである赤茶色の塔の北側に立っています。曲線が美しく、肩の線や胸の膨らみなど女性特有の柔らかさが表現されています。角度によって見え方が異なり、作品の左斜め後ろから見ると、まるで花弁の中にいる人魚姫のようです。「どこからでも私を見て」と言わんばかなりの美しさです。



【交通】地下鉄「天神」下車徒歩10分・西鉄バス「市民会館前」下車徒歩2分【住所】天神五丁目2-1

### B-04 砲台跡

須崎公園の那の津通り側に残る石垣は幕末期、黒船の襲来を防ぐために築かれました。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩10分・西鉄バス「市民会館前」下車すぐ【住所】天神五丁目2【トイレ】有



### B-05 那の津大橋

潮の香りとともに急に視界が開けます。気持ちの良い海風にも心も体のびのび。



### B-06 那珂川沿いの道

川沿いでは釣り糸をたれる釣りの姿も見られます。



### B-07 都市高速下トンネル

緑の三角屋根もかわいい博多埠頭への入口。トンネルを抜けたとそこに青い海。



### B-08 博多ポートタワー

### B-09 博多港ベイサイドミュージアム

赤いポートタワーは博多埠頭のランドマーク。地上70mの展望台からは360度のパノラマに感動。また、ポートタワーの下にある博多港ベイサイドミュージアムでは、博多港の役割を楽しみながら学ぶことができます。



【交通】西鉄バス「博多埠頭」下車すぐ  
【住所】博多区築港本町14-1  
【問い合わせ】291-0573【休日】年中無休



## 舞鶴エリアの特長

あいれふを出発して博多埠頭へ向かう「海風コース」は往復で約5km、片道30分程度です。広くて歩きやすい歩道が続き、那の津大橋あたりからは海風を感じながらウォーキングが楽しめます。ポートタワー・ベイサイドプレイスなど、みどころもいっぱい。



### B-10 サンセットパーク

博多港の先端にある公園。緑の芝生に腰を下ろして、夕日を眺める人も。

【交通】西鉄バス「博多埠頭」下車徒歩2分



### B-11 柳田神社浜宮

博多山笠の昇き棒を洗い浄める行事が行われる神社です。

【交通】西鉄バス「博多埠頭」下車徒歩3分



### B-12 ベイサイドプレイス

博多埠頭旅客ターミナルと一体化した複合商業施設。レストランや雑貨店などもあり楽しみ方もいろいろ。中央にはアクリウムがあり、直径9mの大型水槽で泳ぐ魚の姿を見ることができます。

【交通】西鉄バス「博多埠頭」下車すぐ  
【住所】博多区築港本町13-6  
【問い合わせ】281-7701  
HP: <http://www.baysideplace.jp/>  
【営業時間】9:00～24:00(店舗により異なる)  
【休日】年中無休【トイレ】有



## NEXT 散策ポイント



# B 舞鶴コース 周辺散策ポイント

## 天神の眺望

### B-13 ステップガーデン

天神中央公園側にある2か所の入り口から登ります。土・日・祝日には最上階の展望台に行くことができ、360度のパノラマを楽しむことができます。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩3分【住所】天神一丁目1-1【問い合わせ】エイ・エフ・ビル管理(株)☎751-8591【利用時間】春期(3月~4月)9:00~18:00、夏期(5月~8月)9:00~18:30、秋期(9月~10月)9:00~18:00、冬期(11月~2月)9:00~17:00※最上展望台は、土日祝日(10:00~20:00)のみ開園



### B-14 福岡市役所展望回廊

ぐるっと一周できる福岡市役所15階の展望回廊。ベンチが置いてあるので、ゆっくりと過ごすことができます。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩4分【住所】天神一丁目8-1【利用時間】平日8:45~17:15



### B-15 イムズスカイガーデン

イムズビル14階から階段を上った所にある屋上展望広場。テラスは植物と花に囲まれ、テーブルと椅子が設けられています。※季節によってはイベントを開催しています。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩3分【住所】天神一丁目7-11【問い合わせ】733-2001HP:https://www.ims.co.jp/【利用時間】11:00~21:00※雨天及び強風の際は閉鎖



## 天神の美術群

### B-16 昇る・生まれる・歩く

【交通】西鉄バス「天神四丁目」下車徒歩2分【住所】(緯度経度)33° 35'35.6"N / 130° 24'08.1"E



### B-19 プリーズ・リクエスト

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩4分【住所】(緯度経度)33° 35'25.3"N / 130° 24'04.0"E



### B-22 春を奏でる

【交通】西鉄バス「天神警固神社・三越前」下車徒歩3分【住所】天神二丁目2(緯度経度)33° 35'18.4"N / 130° 23'57.9"E



### B-17 スターゲート

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩3分【住所】(緯度経度)33° 35'31.1"N / 130° 24'08.1"E



### B-20 プリマヴェーラ

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩4分【住所】(緯度経度)33° 35'24.4"N / 130° 24'03.5"E



### B-23 福岡銀行本店

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩1分【住所】天神二丁目13-1



### B-18 桂の影

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩4分【住所】(緯度経度)33° 35'31.5"N / 130° 24'05.6"E



### B-21 パサージュ広場

【交通】地下鉄「天神南」下車すく【住所】天神一丁目4-1



### B-24 ヨーロピアン・ドリーム

天神地下街のインフォメーション広場東側からくり時計があり、30分おきに上品な音色が奏でられます。曲は、15世紀のシャンソンでフランスのクレマン・ジャンカ作曲の「昔小娘」をロンド風にアレンジしたもの。平成10年に一般公募で選定された「残したい福岡の音風景21」にも選ばれています。



【交通】地下鉄「天神」下車すく【住所】天神地下街東2番街

### B-25 天神地蔵

真夏の太陽は暑からうと妻わら帽子、真冬の北風は寒からうと毛糸の帽子にマフラーを身にまとい、背丈50cmほどの小さな地蔵が天神交差点の一角にある花壇の中で、足早に通りに行く雑踏を柔かな顔で見守っています。悲惨な事故が起きたのは昭和54年9月、暴走族の取り締まり中にバイクにはねられ殉職した警察官を悼み、供養の地蔵が現場のすぐ横に建てられました。



【交通】地下鉄「天神」下車徒歩1分【住所】(緯度経度)33° 35'28.6"N / 130° 23'57.0"E

### B-26 福岡市役所跡碑

福岡市が誕生したのは明治22年4月1日のこと。当時の市域は現在のおよそ67分の1で、市職員はわずか41人でした。このとき木造2階建ての市役所があった場所に碑が立っています。その後、市役所はいったん水鏡天満宮の東側に移った後、大正12年に現在の場所に移転。昭和63年に建て替えられて今に至ります。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩4分【住所】(緯度経度)33° 35'31.2"N / 130° 24'05.0"E



### B-27 ヴィクトリア時代の街灯

福岡市の姉妹都市であるアメリカ・オクラホマの市民が、昭和50年に福岡市民に寄贈した街灯です。19世紀のヴィクトリア時代に作られたこの街灯は、オクラホマのレーキ・メトリック公園周辺を首飾りのように美しく彩った装飾の一つです。夜になるとオレンジ色の柔らかな明かりがともり、ロマンチックな雰囲気をもたらしてくれます。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩4分【住所】(緯度経度)33° 35'26.8"N / 130° 24'04.4"E



### B-28 福岡藩刑場跡碑

昭和の初め、この地に知事公舎があったころ、僧侶の幽霊が出るとの噂が広がったので調べてみると、江戸時代に空着上人(くうしようじん)P17-C-13)が処刑された場所であることが分かりました。ここに福岡藩の刑場があったことを示す碑が、現在もつそり立っています。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩7分【住所】(緯度経度)33° 35'23.4"N / 130° 24'13.4"E



### B-29 石積みの広場

天神地下街の7番街から8番街までの壁面は石垣をイメージして造られています。江戸時代、幅50mの肥前堀がこの場所を通って東西に延び、両岸には石垣が築かれていました。肥前佐賀藩の支援を受けて造られたことからその名が付いた肥前堀。現在の福岡市役所庁舎の南側半分は、この堀の上にあります。

【交通】地下鉄「天神南」下車徒歩4分【住所】天神地下街7番街・8番街



## 那珂川の架橋群

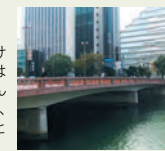
### B-34 西中島橋

江戸時代、福岡藩初代藩主・黒田長政は中洲の東西に2つの中島橋を架け、武士の町・福岡と商人の町・博多を結びましたが、西中島橋の福岡側もともに堅固な石垣でできた桁形門が設けられ、通行人が検問されるなど互いの交流は厳しく制限されていました。平成15年に新設された橋の中央にあるベンチ上に、当時の歴史が記されています。



### B-35 西大橋

橋の直下を走る地下鉄の建設工事に伴って架け替えられた西大橋の全長は82.55m。橋の基礎は地下鉄と一体構造を成して福岡の街を固く結んでいます。毎年5月には博多さんたくのパレード、7月には博多祇園山笠の集団山見せの舞れ舞台として、夏の風物詩を演出しています。



### B-38 吉岡禅寺洞碑

明治22年、福岡崎生まれ。大正期、高浜虚子に賛同し俳誌「天の川」を創刊するも、昭和に入り新興俳句に傾倒。昭和11年、日野草庵、杉田久女とともに「ホトギス」同人を除名されました。戦後は全国口語俳句協会会長となり、口語俳句の普及に貢献。住居のあった今泉公園に「こがねむしが眠っている 雲たちは ハントマイム」の句碑があります。

【交通】地下鉄「天神南」徒歩6分・西鉄バス「天神警固神社・三越前」下車徒歩3分【住所】中央区今泉一丁目8(トイレ)有

### B-30 田原淳住居跡碑

田原淳は大分出身の病理学者です。「心臓はなぜ動くのか?」という謎に挑戦し、明治39年、心臓の拍動を指令する電気信号を伝える特殊な心筋繊維(=刺激伝導系)を発見しました。これは心臓学の歴史を開く世紀の大発見で、彼は「ペースメーカーの父」と呼ばれています。

【交通】西鉄バス「天神警固神社・三越前」下車徒歩3分【住所】(緯度経度)33° 35'16.4"N / 130° 23'55.3"E



### B-31 メルヘンチャイム

昭和56年、新天町商店街創業35周年を記念して設置されたからくり時計です。朝9時の「喜びの歌」から夜8時の「ホームスイートホーム」まで、1時間ごとに流れるメロディーに乗せて子どもやピエロの人影が踊ります。時計中央の小窓からは新天町のマスコット「どんたくくん」も登場し、楽しいひとときを演出します。

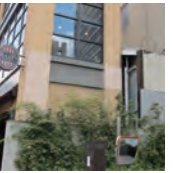
【交通】地下鉄「天神」下車徒歩3分【住所】(緯度経度)33° 35'25.0"N / 130° 23'52.6"E



### B-32 赤銅御殿の赤レンガ

福岡平和ビルの辺りにはかつて、「筑豊の炭鉱王」と呼ばれ、白濁(びやくれん)事件でも知られる伊藤伝右衛門(でんえんゑん)の別邸・赤銅御殿がありました。屋根をすべて銅でふいた豪大な建物でしたが、昭和2年に漏電のため全焼しました。昭和通りに面するカフェの裏の隙間からは、赤銅御殿の赤レンガ柄がすくまにのぞいています。

【住所】(緯度経度)33° 35'29.7"N / 130° 23'48.6"E



### B-33 安国寺

豊前中津から福岡藩主になった黒田長政が豊前から移した安国寺。「あ・うん」と口を開閉した大きな仁王像が山門でお出迎えます。境内にはケヤキの香り漂う鐘楼(しようろう)堂。天井を見上げると「双龍」を描いた天井画の迫力に息をのみます。鬼瓦は鐘樓堂を守る意味を持ち、魔を威圧し退けるその表情は必見です。

【交通】地下鉄「天神」下車徒歩5分【住所】天神三丁目14-4【問い合わせ】☎741-2770



### B-36 福博であい橋

天神中央公園や旧福岡県公会堂貴賓館から連なる、その名の通り福岡と博多が出会う橋です。橋の途中にある、やりが突き刺さった杯を模したパネルは、民謡「黒田節」の世界を連想させてくれます。たもとには博多人形師・小島与一の三人舞妓が舞い、夜になると那珂川の水面に中洲のネオンがゆめめします。



### B-37 春吉橋と中洲懸橋

昭和23年開催の国体に合わせて架けられた春吉橋。一方、寄り添うように伸びる中洲懸橋(旧春吉橋)の歴史は古く、延宝6(1678)年までさかのぼります。現在の春吉橋建設に伴い旧春吉橋は名称を譲って撤去される予定でしたが、日本古来の石組工法でできた橋の消滅を惜しむ住民の声により、中洲懸橋と名前を変えて残されました。

